

しょうわ つうしん

Show-a 通信

2026.5
第36号

北海道消化器科病院は消化器病分野の最先端治療で地域医療に貢献しています

医療法人彰和会の「彰和 (Showa)」と明らかにするという意味の「Show」を合わせて、「Show-a通信」としました。
私たちの仕事をお知らせすることで、消化器科領域の最新医療をお伝えします。

緩和ケア病棟 開設 10周年



大切な時間を過ごす 環境を整える

多職種チームで支える緩和ケア

大切な時間を過ごす 環境を整える

多職種チームで支える 緩和ケア



北海道消化器科病院の緩和ケア病棟（14床）は、2016年5月16日に開設し、今年で10年目を迎えます。医療と生活、地域をつなぎながら、一人一人に寄り添った緩和ケアを多職種チームで提供しています。

緩和ケア病棟チーム

鍼灸師

看護師

医師

管理栄養士

音楽療法士

医療ソーシャルワーカー

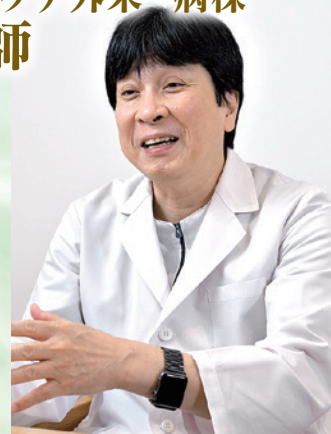
ボランティア



緩和ケア外来・病棟 医師

田巻 知宏

北海道消化器科病院 副院長



放射線治療も含めた
幅広い緩和ケアを提供

【学会認定資格など】

- 日本緩和医療学会認定医
- 緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了
- がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会修了
- がんのリハビリテーション研修ワークショップ修了

病棟設計の段階から関わり、「あたたかい雰囲気」の病棟「明るい病棟」「落ち着いた病棟」の3つをコンセプトとしました。緩和ケア病棟は「その人らしく、大切な時間を過ごせる場所」であるべきと考えています。開設時から緩和ケア医として、チームの一員の中で症状コントロールや治療方針の提示、意思決定支援に関わっています。

また、当院の緩和ケア外来と緩和ケア病棟を診療所や病院と連携させ、地域の患者さんに適切な緩和ケアを提供していきたいと考えています。

さらに、当院では、緩和ケアに欠かせない放射線治療による「痛みや出血、皮膚病変」などへの対応が可能です。消化器外科・消化器内科による積極的な医療も提供しており、患者さんの状況に応じて柔軟に緩和ケアを実践できる強みがあります。

棟病ケア緩和 看護師

緩和ケア棟棟長
蛭子 智美



緩和ケア認定看護師

患者さんやご家族が「良かった」と思える時間を

15年前に緩和ケア認定看護師の資格を取得し、がん患者さんのターミナルケアに一貫して携わってきました。緩和ケア病棟開設時には主任として立ち上げに関わり、2025年1月からは師長として運営を担っています。

看護師は、患者さんやご家族と最も近い距離で関わる存在です。症状のアセスメントや身体的・精神的ケアを行うだけでなく、一人一人の思いを丁寧にくみ取り、必要な情報を多職種へとつなぐ役割を担っています。フィードバックを必ず受け、チーム全体のケアの質向上に生かします。

患者さんご家族を中心に、多職種が連携する中で、「お風呂に入れて良かった」「おいしく食べられて良かった」「家族に会えて良かった」などの小さな「良かった」の積み重ねを増やしたいと思っています。

鍼灸師

医療連携相談室／緩和ケア内科
朝田 ちあき



明治国際医療大学鍼灸学部卒。日本緩和ケア鍼灸ネットワーク代表、死の臨床研究会北海道支部世話人などを務める。

患者さんの苦痛を緩和し希望を支える

現在、北海道において、緩和ケア病棟で鍼灸治療を提供しているのは当院のみです。緩和ケア病棟を中心に全病棟の終末期患者さんを対象に、医師の判断のもと、痛みや息苦しさを、リンパ浮腫などの症状の緩和を目的に通常医療と並行して行います。治療中は思いを語る患者さんも少なくありません。カンファレンスでは、患者さんの病状だけでなく、「大切にしていること」をチームと共有し、治療では「患者さんの体も心も楽になる治療・ケア」を目指しています。治療後は症状の緩和だけでなく、「好きなものを食べられた」「家族とい時間をも過ごし、思いを丁寧に聴くこと、余白を守ることの大切さを実感しています。」「緩和ケア鍼灸」の普及を目指し、当院の取り組みを学会などで発信しています。

音楽療法士

緩和ケア内科 臨時職員
中山 ヒサ子



日本音楽療法学会所属。元・札幌大谷大学芸術学部教授。多くの医療機関での音楽療法立ち上げにも関わっている。

医学的ケアとしての音楽を提供

ホスピスケア開設時に「医療的な音楽療法」を担当してほしいとの依頼を受け、臨時職員として関わっています。

毎週木曜、テイルームにて3人チームによる演奏や歌唱を用いた音楽療法を実施しています。季節に合わせた曲を選ぶほか、事前に寄せられた患者さんのリクエストにも応じ、効果を分析しながら支援しています。

患者さんの病状や背景は、当日のカンファレンスや情報シートで理解を深めています。そのうえで、演奏中は、ひとときでも病から気持ちが離れ、よりよい時間を過ごしていただけるよう心を込めて関わります。患者さんやご家族が音楽に重ねる思いや存在（投影）を受け止め、音楽の中にもにていることが喜びとなるよう祈りながら取り組んでいます。

管理栄養士

栄養科
稲船 奈津子



食べる喜びと選ぶ楽しさを提供したい

緩和ケア病棟のメニューには、食べる喜びを支えるための主食（カレーライスやいなり寿司など）や通常の食事以外にも付加食として梅干しやとろろいもなどを用意し、提供時には瀬戸物の食器と木目のお盆を使っています。毎日のおやつは12種類をそろえ、「選ぶ楽しみ」も大切にしています。

医療ソーシャルワーカー

医療連携相談室
瓜田 理恵



地域の医療機関とスムーズに連携

地域の医療機関や在宅診療所と連携し、入院受入の相談対応や転院調整、在宅療養に向けた準備などを担当しています。

緩和ケア外来では、初診時に患者さんやご家族と面談し、今後の療養に関する希望を確認するとともに、状況の変化にも柔軟に対応しています。

当院ではボランティアが チームの一員として活動しています

2017年に組織されたボランティアで、現在8人が活動しています。

活動日や内容は、各メンバーの都合に合わせて、得意なことを持ち寄り、ボランティアコーディネーターや仲間と相談しながら、中庭や病院周辺の庭木の手入れ、緩和ケア病棟内の季節の飾り付けやイベント、図書管理、医療機器のカバーづくりなどを行っています。

活動の動機は「仕事が休みの日に社会貢献をしたい」「家族をこちらの病棟で看取った際に大変よくしていただき、その恩返しをしたい」「がん患者の家族だった経験を生かし、同じような方の力になりたい」「自分が生きてきた証として誰かの役に立ちたい」などさまざまですが、活動の目的は「患者さんも家族もほっとできる空間・場面づくりです」と声をそろえます。



病院ボランティア「まはな」メンバー募集中

個々人の都合に合わせて楽しみながら活動しています！

◆お問い合わせ先：総務経理課 ☎011-784-1811(代表)

北海道消化器科病院では「医療者の手術見学」を積極的に受け入れています



医療法人 彰和会
HGH 北海道消化器科病院

消化器内科、腫瘍内科、内科、緩和ケア内科、消化器外科、
外科、肛門外科、放射線科、麻酔科、病理診断科

- 設立：1988年2月20日
- 住所：札幌市東区本町1条1丁目2番10号
- 電話：011-784-1811 □ FAX：011-784-1838
- ホームページ：http://www.hgh.or.jp/
- 病床数：177床